

神海抄子

高津才次郎の贈

昭和四十二年秋

高津才次郎





高橋書印
此書乃高橋君所著其書之
中多有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其

高橋君之書

此書乃高橋君所著其書之
中多有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其

此書乃高橋君所著其書之
中多有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其
中亦有不可思議之事其



洛

さけけやほんどまはれん牛車

梅通

鶯の降り賑早一層袴

九記

炭竈の道くまゆふ一梅乃花

芥舎

糸花やそとくよりてき何れ

枇五

紙のまゆ引ゆ一梅乃枝

澄市

とらふすこきまよたのちらよのま

五律

春のまよれを空守り明のま

拾山

雪のまよれちさくねもま

波田

雪のまよれ田こえれハ縁こま

蒼山

雪のまよれを麻屋の尻雨

有亭

雪のまよれちさくねもま

公成

東都

蓮のまよれを縁こま

卓亭

草のまよれを縁こま

不深

春のまよれを縁こま

春洲

雪のまよれを縁こま

聖舟

雪のまよれを縁こま

新浦

あつちのついでにのこりておぼろけり

丹月

春はあけぬきとてあけぬきとて信や

多

中をよみてのりてとてあけぬきとて

月

白雲のまろけりてとてあけぬきとて

多

あけぬきとてあけぬきとてあけぬきとて

月

補助

あつちのついでにのこりておぼろけり

芳年

あつちのついでにのこりておぼろけり

鳥孝

あつちのついでにのこりておぼろけり

信暉

あつちのついでにのこりておぼろけり

三体

あつちのついでにのこりておぼろけり

桂新

高橋

あつちのついでにのこりておぼろけり

雪庭

あつちのついでにのこりておぼろけり

紫川

あつちのついでにのこりておぼろけり

野笛

あつちのついでにのこりておぼろけり

丹月